

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 のどか宅老所	代表者	矢山修一	法人・ 事業所 の特徴	事業所の理念である「あなたの心の拠り所になりたい」を大切に、一人一人の生活リズムに合わせたケアを心掛けている。合わせて家族の介護負担軽減が図れるよう、その日の要望に合わせたサービスが柔軟に提供できるよう対応している。
事業所名	小規模ホームのどか	管理者	神谷久美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	人	人	人	2人	人	人	1人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員全員で情報を共有し、協力し合う事で統一した支援が提供出来るように取り組む。	以前より統一した支援が出来たと感じる。だが、職員で個人差があり課題が残る。	骨折後の利用で心配でしたが、日を追うごとに動きがよくなり、私が一人で介護をしているので助かっています。	出来ていない部分を助けて合う事で、支援を統一する。又、理念に基づき、利用者に寄り添った支援を提供出来るように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ禍で制限されている状態ではあるが、施設内で季節を感じられる取り組みを計画し、居心地の良い空間作りや行事に努める。	下半期には運動会や紅葉、梅を愛する行事で久しぶりに外に出かけ、大変喜ばれ良い気分転換となつた。季節を感じる行事の大切さを知る。	利用を始めて数ヶ月ですが、こんなに「楽しい、早く行きたい」と利用を楽しみにしている父親を見るのは初めてです。	コロナの制限も緩和傾向にあり施設内外で季節を感じられる取り組みを計画、居心地の良い空間作りや行事に努め、利用者一人一人に合ったケアを提供していく。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍で、まだまだ活動に制限はあるが、地域や院庄こども園や院庄駅への活動が途切れないと継続していく。	院庄こども園や院庄駅への活動は継続出来ている。特に今年度は秋祭りで訪ってくれた園児と制限はあるものの一緒に体操や歌を楽しみ交流が出来た。	帰宅後、何も覚えていない母ですが、ノートを見て、その日の楽しかった様子や色々知れて安心しています。	地域と関わっていく大きさを理解出来ていない職員もあり、より良く継続していく為には、改めて学習したり、取り組みの共有に努めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	年間通しての計画を立て、地域の文化祭等に作品を出品する。利用者と共に地域に出向いて行く活動を支援し取り組む。	今年度初の試みで、地域の文化祭に作品を数点出品した事や地域のウォークラリー大会や防災訓練にも参加出来た。	コロナ禍で制限があり作楽神社への行事の参加が出来ていないと聞き残念でしたが、散歩等で工夫されている様子が分かりました。	今年度も年間通しての計画を立て、地域の文化祭等に作品を出品する。又、情報収集し、利用者と共に地域に出向いて行く活動に取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	在宅で抱えている悩み等を気楽に相談出来る様に家族の方とコミュニケーションを取り情報収集に努め支援に繋げていく。	契約時より拒否が強く家にも上げて貰えない利用者さんでしたが、半年間「訪問」に通い、顔なじみになる事で「通所」に繋げる事が出来た。家族とも連携をとる事で信頼関係を築けた。	「のどかに行くとほっとする。」「皆の顔を見るのが楽しみになっている。」「楽しい」等憩いの場となっている声を聞く事が出来た。	推進会議の場が交流の場になることで、在宅で抱えている悩みや困りごとを気軽に相談できる場として確立していく。

F. 事業所の防災・災害対策	繰り返し学ぶ事が大事である。その都度、反復して知識や対応を身につけていく。職員一人一人が身につける事で、緊急時には安心して避難出来る場所として確立していく。	今年度は地域の防災訓練に利用者と一緒に参加し緊急時の対応が学べた。又、自施設でも避難訓練を実施。反復する中でも問題点を見つけ意見交換する事で次に繋がったと感じる。	のどかが避難所に指定されており、質問に対して2次避難所である事や対応を詳しく教えてもらい安心できた。	緊急時の避難所として、どのように対応し受け入れていくかを具体化していく必要がある。緊急時には安心して避難出来る場所として確立していく。
----------------	--	---	--	---